

令和七年 第二回

七宝会公演

はしたかの
野守の鏡得てしかな
思ひ思はず
よそながら見ん

能	狂言	能
「熊野」	「棒縛」	「野守」
石黒 実都	善竹 隆司	辰巳 孝弥

降るは涙か桜花
散るを惜しまぬ
人がある

◆6月7日(土) 16時開演(15時半開場)

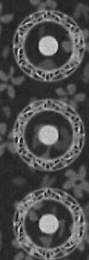
◆枚方市総合文化芸術センター本館

関西医大小ホール

最も古典にして、
最もアヴァンギャルドな芸能
能楽をみなさまに

七宝会

令和七年 第二回 七宝会公演



七宝会

【番組】

能 「熊野」

熊野 石黒 実都
朝顔 葛野 りさ
平宗盛 福王 和幸
従者 中村 宜成
大鼓 辻 雅之
小鼓 久田陽春子
笛 森田 啓子

狂言 「棒縛」

次郎冠者 善竹 隆司
主 上西 良介
太郎冠者 上吉川 徹
後見 小西 玲央

能 「野守」

野守の翁 鬼神 辰巳 孝弥
山伏 福王 和幸
里人 小西 玲央
大鼓 辻 芳昭
小鼓 荒木 建作
太鼓 中田 一葉
笛 貞光 卓生

日時 令和七年六月七日(土) 十六時 開演(十五時半 開場)
会場 枚方市総合文化芸術センター 本館 関西医大 小ホール
料金 指定席 5,000円 自由席 3,500円 学生 2,000円

◆スマホde解説

「衆我財団」様の支援事業として、お客様ご自身のスマホをお使いいただき、ご自身のイヤホンで解説をお聴きいただけるサービス提供が始まりました。ご希望の方はスマホとイヤホンをご持参のうえ、ご体験くださいませ。

【解説】

◇ 能 「熊野」 ゆや

遠江国 池田宿の遊女・熊野は、平宗盛の寵愛を受け、都に留め置かれていた。病気の老母をもつ彼女は度々暇を乞うものの、なかなか帰郷の許しが出ない。そこへ、侍女の朝顔が母からの手紙を持ち訪ねる。文には、病状が思わしくなく、今生の別れが来る前に一目でも会いたいという切々とした母の願いがしたためられていた。熊野は手紙を宗盛の前で披露するが、宗盛は帰郷を許さず、清水寺の花見の供に連れ出してしまふ。熊野は京の様々な景物を目にしている間に沈む。やがて清水寺へ着いた宗盛たちは酒宴をはじめ、熊野は母の身を案じつつも桜をめでて優雅に舞う。そのとき、にわかを通り雨に散ってゆく花を見た熊野は、母の面影を重ねて歌を詠む。その歌に心動かされた宗盛は、ついに彼女の帰郷を許すのだった。

◇ 狂言 「棒縛」 ほうしはり

酒好きな太郎冠者・次郎冠者、二人の召使いは主人が留守になるたびに酒蔵へ忍び込んで盗み酒をする始末。この事を知りつつ今日も外出する予定の主人は、一計を案じてまず次郎冠者を呼び出し、最近棒の手(護身術)の稽古をしている太郎冠者にその型をさせ、隙を見て縄で括りつけようと提案するが…。

◇ 能 「野守」 のもり

大和国 春日の里を訪れた山伏。一人の老人が、野中の溜まり水に姿を映しつつ佇んでいた。老人は、自らをこの野の野守と名乗り、古歌に詠まれた「野守鏡」とはこの水のことで教える。昔、この野の野守が帝の鷹を捜し出して栄誉を得たのも、この水鏡のおかげ。老人は、往時を慕って涙する。しかし一方で、真実の野守鏡とはこの水ではなく、鬼神のもつ明鏡をさすのだと明かす老人。山伏はその鏡も見たいと望むが、老人はそんな彼の願いを断ると、野中の塚に姿を消してしまふ。なおも真実の鏡を拜みたいと願う山伏。山伏は、自らの法力によってこれを叶えようと、一心に祈りを捧げる。すると、明鏡を携えた鬼神が、塚の中から出現した。鬼神は、全宇宙のすがたを明鏡の内に映し出し、山伏へ世界の真実を見せ示すのだった。

◆ 令和七年 七宝会年間会員について

- 年会費 13,000円
- 年間4公演のうち、普及公演を除く3公演の指定席代金15,000円を13,000円でご提供いたします。
- 発売・予約開始は、会員は60日前(一般は50日前より)。
- 年度途中からでも会員にお申し込みいただけます。

宝生流 七宝会

〒572-0009

大阪府寝屋川市末広町11-8 辰巳方

TEL 072-831-3206

FAX 072-832-5115



枚方市総合文化芸術センター 本館
関西医大 小ホール
大阪府枚方市新町2-1-60

京阪電車「枚方市」駅から徒歩約5分